

令和5年度 事業計画

1. 事業の概要

(1) 教育・研究活動の充実（中期計画に基づく年度計画）

- ① 学科の専門性を活かすことができる免許・資格等の取得プログラムの追加について検討する。
- ② 初等教育学科での免許・資格プログラムの内容の充実を図るため、より多くの専門教育科目を学びつつ、広範な教養的内容も学修可能となるカリキュラムを検討する。
- ③ データ分析に関連する授業を全学的に整理し、データサイエンス科目系に該当する科目の選定や再編を行うとともに、これらの科目を活用して、社会調査士の資格認定課程の設置準備を進める。
- ④ 本学の研究を紹介するリーフレット等の資料を作成し、学内行事や地域公共施設等での配布を行うとともに、大学ホームページに掲載し、本学の研究活動について多方面に広く周知する。

(2) 併設校の特色ある教育の推進（中期計画に基づく年度計画）

- ① 中・高等部
 - ・進路ガイダンス、教育相談等の充実を図り、生徒が目的に向かって主体的に取り組む態度や、生徒が目標を高く設定し、目標を達成するための学ぶ意欲を育成する。
 - ・通常の授業に加え、補習、講習、模擬試験を効果的に組み合わせることにより、生徒のより高い学力を育成する。
 - ・生徒の学力向上に向け、管理職や外部有識者による授業見学、教員同士による相互参観、生徒・保護者からの授業アンケートを活用した、教員一人ひとりの授業改善を推進するとともに、カリキュラム・マネジメントの確立を図る。
 - ・校外の入試イベント参加、公立中学校訪問、塾訪問等をさらに充実させるため、体制を整備し、積極的な広報活動を推進する。
- ② 初等部
 - ・授業進度や授業時間数の管理を節目ごとに行い、特色ある教育課程を確実に実施する。
 - ・児童の発達段階を考慮しながら、「ていねいできめ細やかな授業」を全教員が日常的に実践していく。
 - ・「ていねいできめ細やかな授業」を実現するため、「授業の残り5分」まで疎かにしない授業、「5時間目の1年生」を合言葉に、全児童が何時でも集中して学習することができる授業、児童の興味・関心を大切にしたい授業を展開する。
 - ・情報フェアや学校紹介、オープンスクール等の方法・内容、ホームページの内容・レイアウトを工夫するとともに、幼児教室、幼稚園等との信頼関係を深め、初等部のよさや魅力を積極的に伝えていく。
- ③ 幼稚部
 - ・保育内容の充実を図るため、前週末に各学年の教員同士で活動を振り返り、確認し合う時間を確保し、学年間で十分に検討した週案を作成するとともに、週案の内容を週始めの打合せで全教職員が把握し、連携して保育にあたる。
 - ・研修に積極的に取り組み、得た情報を職員間で共有し、日常の保育に生かすとともに、実践した成果についても報告することで、保育の質の向上を図る。

- ・ 幼稚部の特色・保育内容を分かりやすく紹介できるよう、ホームページに文章や写真等を工夫して掲載し、タイムリーに情報発信していく。

2. 財務の概要

(1) 教育活動収支

① 事業活動収入の部

学生生徒等納付金は、中・高等部及び初等部の生徒・児童数が増加したが、大学・短大の学生数が減少したことにより、前年度予算と対比して、65,711千円減少の3,785,328千円（対前年度予算比98.3% 対前年度実績見込み比61,337千円減少 98.4%）の見込みである。手数料、雑収入は前年比減少、経常費等補助金、付随事業収入は前年比増加を見込む。この結果、教育活動収入計は4,624,704千円（前年比128,514千円減少）の見込みである。

② 事業活動支出の部

人件費は、教職員人件費、退職金の減少により、前年度予算と対比して、98,484千円減少の3,018,686千円（対前年度予算比96.8% 対前年度実績見込み比99,763千円減少 96.8%）の見込みである。教育研究経費は、光熱水費、修繕費が増加して、前年比112,802千円増加の1,847,124千円を見込む。管理経費は、前年比4,640千円減少の308,965千円を見込む。この結果、教育活動支出計は5,174,775千円（前年比9,678千円増加）の見込みである。

③ 教育活動収支差額

教育活動収入計から教育活動支出計を差し引いた教育活動収支差額は、前年度予算と対比して、138,192千円減少の△550,071千円（対前年度実績見込み比148,246千円減少）の見込みである。

(2) 教育活動外収支

① 事業活動収入の部

受取利息・配当金は、前年度予算と対比して、17千円減少の3,398千円（対前年度予算比99.5% 対前年度実績見込み比37千円増加 101.1%）を見込む。この結果、教育活動外収入計は3,398千円（前年比17千円減少）の見込みである。

② 事業活動支出の部

予算計上はない見込みである。

③ 教育活動外収支差額

教育活動外収入計から教育活動外支出計を差し引いた教育活動外収支差額は、前年度予算と対比して、17千円減少の3,398千円（対前年度実績見込み比37千円増加）の見込みである。

(3) 経常収支差額

教育活動収支差額と教育活動外収支差額を合計した経常収支差額は、前年度予算と対比して、138,209千円減少の△546,673千円（対前年度実績見込み比148,209千円減少）の見込みである。

(4) 特別収支

① 事業活動収入の部

資産売却差額の予算計上はない見込みである。その他の特別収入は、現物寄付2,835千円（前年比2,845千円減少）、施設設備補助金の予算計上はない（前年比8,500千円減少）見込みである。この結果、特別収入計は2,835千円（前年比11,345千円減少）の見込みである。

② 事業活動支出の部

資産処分差額は建物処分差額の減少により、2,265 千円（前年比 16,357 千円減少）を見込む。その他の特別支出の予算計上はない（前年比同額）見込みである。この結果、特別支出計は 2,265 千円（前年比 16,357 千円減少）の見込みである。

③ 特別収支差額

特別収入計から特別支出計を差し引いた特別収支差額は、前年度予算と対比して、5,012 千円増加の 570 千円（対前年度実績見込み比 4,562 千円増加）の見込みである。

(5) 当年度収支差額

経常収支差額と特別収支差額の合計金額△546,103 千円から予備費 80,000 千円を差し引いた基本金組入前当年度収支差額は△626,103 千円（前年比 133,197 千円減少）を見込む。基本金組入額は 241,221 千円、当年度収支差額は△867,324 千円（前年比 173,094 千円増加）の見込みである。

(6) 予算上の財務比率

[] 内は令和 4 年度

人件費比率	65.2%	[65.5%]
人件費依存率	79.7%	[80.9%]
教育研究経費比率	39.9%	[36.5%]
管理経費比率	6.7%	[6.6%]
減価償却額比率	12.3%	[12.1%]
学生生徒等納付金比率	81.8%	[81.0%]
補助金比率	14.9%	[14.6%]
経常収支差額比率	△11.8%	[△8.6%]
事業活動収支差額比率	△13.5%	[△10.3%]